吸血鬼ノスフェラトゥ（1922）

NOSFERATU: EINE SYMPHONIE DES GRAUENS
NOSFERATU: A SYMPHONY OF TERROR
NOSFERATU: A SYMPHONY OF HORROR
NOSFERATU THE VAMPIRE［米］
TERROR OF DRACULA
DIE ZWOLFTE STUNDE

メディア 映画
ジャンル ホラー　アート
製作国　ドイツ
色彩　B&W
時間　62分
公開情報 劇場未公開

【解説】

著名な歴史家カバリアスの日記のよればノスフェラトウとは血、つまり不死の意、そして、１８３８年、ブレーメンにペストを持ち込んだと言われる人物のこと――という字幕で始まる。ストーカーの有名なドラキュラ伝説の小説の古典的映画化にして最高傑作。変わり者のレンフィールド社長に呼ばれ、ロンドン転じてブレーメンに家を持ちたいというオルロック伯の依頼でトランシルヴァニアに赴くヨナソンは、途中食事に立ち寄った宿屋で夜発つのを止められる。魔物を彼らは恐れているのだ。そして、伯爵の城もまだ見えぬのに馬車を降ろされた彼に迎えの馬車が。待ち受ける伯爵その人は長釘のように痩せ、不気味に爪を伸ばし、その歩き方ときたら形容し難い異様さだ。食事の席でパン切りナイフに怪我したヨナソンの指先の血を凝視する伯爵。彼はその夜、早速、首筋を噛まれ、その血を試飲されるが、翌晩は妻レーナの霊感で、拒絶の叫びが届いて救われる。が、彼は自室に幽閉となり、その間に伯爵は自ら棺ごと馬車に乗り、港から船に乗った。一方のヨナソンは脱走を図って昏倒し、農家の世話になって出遅れる。船中では乗組員が次々ペストに倒れる。棺の割れ目から覗く沢山の鼠……。そして、伯爵の上陸と共にブレーメンをその伝染病が席巻。錯乱して牢中にあったレンフィールドは“御主人”の到来と共に驚喜する。ヨナソンは陸路を急ぎ愛妻のもとに駆けつけるが、その時、ニーナは一滴も残さず自身の血を吸血鬼に与えることで、町を救おうとしていた。彼女の血を味わうのに朝の来るのも忘れた伯爵は日の出と共に灰と消えた。怪物の造形も相当なものだが、ムルナウの恐怖演出の真髄はその闇の深さにある。コワイ、はっきり言って……。

【クレジット】

監督	Ｆ・Ｗ・ムルナウ	F.W. Murnau
原作	ブラム・ストーカー	Bram Stoker
脚本	ヘンリック・ガレーン	Henrik Galeen
撮影	ギュンター・クランフ	Gunther Krampf
	フリッツ・アルノ・ヴァグナー	Fritz Arno Wagner
出演	マックス・シュレック	Max Schreck
	アレクサンダー・グラナック	Alexander Granach
	グスタフ・フォン・ワンゲンハイム	Gustav von Wangenheim
	グレタ・シュレーダー	Greta Schroder

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.